

新潟市水族館指定管理者 令和2年度事業計画書

※ 事業やショープログラム等については、名称・内容・実施時期等は案であり、変更する場合があります。

1 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

新潟市水族館の基本的使命のもと、当財団のミッションを「自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献する」、ビジョンを「新潟で一番愛される施設を目指す」とし、多くのお客様に来ていただけるような魅力ある事業を展開し、サービスの徹底、満足度向上に努めてまいります。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行ってまいります。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行ってまいります。令和2年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。

	目標値	目標値の設定根拠
入館者数	542,000人 以上	新潟市令和2年度当初予算（端数整理）
入館料収入	473,820千円 以上	

工夫・改良をしながら水族館の魅力を最大限に発揮し、充実したサービスを提供し、目標値に達するよう努めます。常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めてまいります。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。

- ① 臨時開館（年始）… 令和3年1月2日（土）・3日（日）
- ② 臨時閉館（電気設備法定点検等）… 令和3年3月4日（木）・5日（金）
- ③ 開館時間変更
 - a. GW… 令和2年5月3日（日）～5月5日（祝・火）
開館時間30分繰上（8:30～17:00）
 - b. 海の日・体育の日の4連休…令和2年7月23日（祝・木）～26日（祝・日）
開館時間30分繰上（8:30～17:00）
 - c. 夏期… 令和2年8月1日（土）～8月22日（日）の土曜・日曜日・祝日（下記お盆期

間を除く) 閉館時間 1 時間繰下 (9:00~18:00)

d. お盆… 令和 2 年 8 月 13 日 (木) ~16 日 (日)

開館時間 30 分繰上及び閉館時間 1 時間繰下 (8:30~18:00)

(ただし、b~d は予定。4 月~7 月上旬の入館状況による。)

2 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門 (常設展示)

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」で示す 500 種、20,000 点の飼育規模を維持し、科学的配慮のもとに 10 の展示ゾーンでわかりやすく展示します。展示生物の充実と正確かつタイムリーな情報提供に努め、リピーター、特に年間パスポート利用者に対しても常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を行います。

① 潮風の風景

サンゴ礁や干潟などさまざまな海岸環境を再現し、そこに生息する生物等を展示します。

② 日本海一大陸と列島に囲まれた海

日本海に生息する生物等を浅瀬や深場等の環境ごとに分かりやすく展示します。「日本海大水槽解説」では、水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、日本海大水槽前で展示課職員による解説を実施します。展示生物の紹介、水族館のしくみなど多角的な解説をします。

③ 暖流の旅ー黒潮と対馬海流ー

日本近海の対馬海流や黒潮域で見られる生物等の展示や、育成室で育成の様子を開示します。

④ 信濃川ー多様な陸水環境と魚類ー

信濃川流域の多様な環境と水生生物を、擬岩などの造形物や写真、解説パネルなどを用い展示します。

⑤ 体験・学習

アクアラボで生物標本の展示等を行い、「アクアラボ体験」では水生生物に対する知識と理解を深める事を目的に、参加者の年齢や季節感を考慮したテーマで顕微鏡・カメラ・モニターを用いて、観察と解説を行います。また、磯の生物に触れることのできる水槽で「磯のいきもの解説」を行い、水槽内の生物を近くで観察することによって、生物の扱い方や、生息環境への理解を深めていただきます。他に開架式ライブラリーの充実に努めます。

⑥ 水辺の小動物

アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ラッコといった半水生の水辺に生息する哺乳類を展示します。「ラッコ給餌解説」では餌や生態などを解説します。

⑦ ドルフィンスタジアム

イルカの体のつくり、学習運動能力をショー形式で紹介します。ショーを通じてイルカの形態や生態・能力、ヒトとの関わり、海洋環境保全メッセージなどをわかりやすく伝えます。

⑧ マリンサファリーひれあしの入江

トド、カリフォルニアアシカ等ひれあし類を展示します。「トドの給餌解説」では他施設ではあまり行われていない、トドの直接給餌によるハンドリングを用いた給餌解説を行います。

⑨ ペンギン海岸

フンボルトペンギンを展示します。「ペンギン解説」ではフンボルトペンギンについて解説し、夏期はペンギン海岸プールで餌を与えながら泳ぎ方や餌の捕り方を、秋~春期はペンギン散歩

道で陸上での生活の様子等を主に説明します。また、急速に個体数が減少している生息地の現状や、種の保全という立場から長年繁殖に力を入れてきた館の取り組みも解説します。

⑩ にいがたフィールド

新潟市近郊で見られる砂丘湖、田んぼなどを再現し、そこで見られる生物や季節による変化を紹介するとともに、地域の希少生物などの繁殖を目指します。

(2) 啓発・普及部門（企画展示・特別プログラム等）

魚類等や新潟の自然環境に関する知識を広げるために、教育的視点から施設を最大限利用し、幅広い市民ニーズに応えるため専門知識を活かした様々なプログラムを企画・提供します。

① にいがたフィールドの「田んぼ」を利用したプログラム（自主事業）

にいがたフィールドの田んぼを利用した4回連続の事前募集型体験プログラムを行います。「田植え（5月）」、「稲刈り・稲架がけ（10月）」、「脱穀（10月）」、「稲わら細工（11月）」を体験することで新潟の陸水環境や稲作について考えるきっかけを提供します。なお、本プログラムは4歳以上を対象とし、幼児対象の環境教育プログラムとしても位置づけられます。

② 野外観察会（自主事業）

(ア) 潟のいきもの観察会

潟に生息する水生生物の採集や観察を通し、新潟が誇る水辺環境である里潟への理解を深めます。

(イ) スナガニ野外観察会

海岸線が長い新潟の特徴である砂浜に生息するスナガニに注目した体験学習を通して、環境やその変化を考える機会とします。

③ 各種施設との連携（自主事業）

(ア) 出張展示

他施設・他団体と協力し、指定管理者だけではなしえないサービスや事業を展開します。

(イ) 学校教育施設連携

校外学習の受け入れを行います。水に棲む生物や飼育環境に関する情報を学校からの質問に合わせて、写真や資料を用いて伝えます。

④ 企画展示

「海を流れるモノ」をテーマに、様々な漂着物の実物、水族館の調査資料を中心に、生体や標本、パネルなどを用いて漂着物に関する情報を解説します。また、当館で撮影した写真を一般応募した「フォトコンテスト」を実施し、「フォトコンテスト受賞作品展」で受賞作品を展示します。

⑤ いきもの教室（自主事業）

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的とした体験型教室を実施します。主たる参加者を子供とその保護者を想定し、年間4回、原則土曜日、夏休み期間は火曜日に実施します（別紙1）。事前申込により、各回20名程度を募集します。

⑥ 参加型イベント（自主事業）

にいがたフィールドガイドを実施します。にいがたフィールドを解説しながら案内し、環境と希少生物の域外保全等を紹介します。最後に、その時期に観察できない生物の紹介と解説を補足するための冊子を配布します。

⑦ 大人向け水族館教室（自主事業）

（ア）写真教室

水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で撮影を行います。撮影後は作品発表を行います。

（イ）水族館講座

水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャー、水族館の役割、生物多様性の話、参加者によるワークショップなどを行います。

⑧ 特別ガイドツアー（自主事業）

「ナイトツアー」を行います。通常見ることのできない閉館後の夜の水槽を観察しながら、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説し、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらいます。

⑨ 記念日イベント（自主事業）

（ア）ペンギンの日

4月25日は世界ペンギンの日とされています。25日はバックヤードツアー、26日は標本展示、繁殖の取り組みを紹介します。

（イ）カワウソの日

ユーラシアカワウソの解説、アクアラボ内にて缶バッチづくり、毛皮の展示、カワウソ類のぬりえ等を実施します。

（3）30周年記念事業

新潟市水族館マリニピア日本海の開館30周年記念事業を実施します。「チャレンジ～30年の歩みとこれから～」をテーマに30年間積み重ねてきた数々のチャレンジ（展示・繁殖・研究・教育）をさまざまな記念事業とともに振り返り、これから始まる新たなチャレンジへと繋げていきます。

① 「きいて・さわって・たべてみよう！」

（ア）深海魚

日本海区水産研究所の研究員に深海魚についての講演を行ってもらいます。また、日本海の深海魚に触れるコーナーの設置や深海魚の唐揚げを提供します。

（イ）ラッコのたべもの

北海道区水産研究所の研究員にラッコについての講演を行ってもらいます。また、ラッコの毛布標本に触れるコーナーの設置やボイルしたホタテ、イカ、タラをトッピングしたカレーライスを提供します。

（ウ）クラゲ

加茂水族館館長にクラゲについての講演を行ってもらいます。また、クラゲにビニール越しで触れるコーナーの設置やクラゲのアイスを提供します。

（エ）アカムツ

日本海区水産研究所の研究員にアカムツについての講演を行ってもらいます。また、アカムツの鮮魚に触れるコーナーの設置やアカムツの焼き料理を提供します。

（オ）クロスタウナギ・ミズダコ

足立区生物園の解説員にクロスタウナギについての講演を行ってもらいます。また、クロスタウナギ、ミズダコ、マダコの生体に触れるコーナーの設置やクロスタウナギとタコの

唐揚げを提供します。

(カ) サケ

日本海区水産研究所の研究員にサケについて講演を行ってまいります。また、生け簀に入れたサケの生体に触れるコーナーの設置やサケのフライを提供します。

(キ) 深海生物

日本海区水産研究所の研究員に深海生物についての講演を行ってまいります。また、日本海の深海生物に触れるコーナーの設置や深海生物の汁物を提供します。

② 特別講演会

「今までの水族館・これからの水族館」をテーマに実施します。30年前の水族館と現在の水族館の社会的な役割の共通点や変化、そして今後求められていることなどを紹介します。

③ 企画展示

(ア) マリンピア日本海 30年のあゆみ「年表」

1990年開館から現在までの出来事を年表で振り返ります。

(イ) マリンピア日本海 30年のあゆみ「魚とイルカの運び方」

イルカ輸送コンテナの実物を展示し、輸送装置の工夫や安全に運ぶための注意点などを写真や解説パネルで紹介いたします。また、水族館職員が行う魚の輸送方法で、現在と昔とでの違いを新旧の活魚輸送車の模型などで紹介します。

(ウ) マリンピア日本海 30年のあゆみ「ラッコとペンギンの30年」

マリンピア日本海での飼育の様子や、繁殖の取り組みを紹介します。

(エ) マリンピア日本海 30年のあゆみ「バイカルアザラシとカマイルカの誕生秘話」

日本初のバイカルアザラシの繁殖を当時の資料を使って紹介します。また、昨年7月29日に誕生したカマイルカの出産前後の様子やスタッフの対応、仔イルカ成長の記録などを紹介します。

(オ) マリンピア日本海 30年のあゆみ「ガラ・ルファ復活、アカムツ展示への挑戦」

過去に人気を博したガラ・ルファの展示を復活。手に入れることで楽しみながらガラ・ルファの生態などを知ってまいります。また、アカムツ生体展示までの10年間の取り組みを、生体、パネル、映像を用いて紹介します。

④ 参加型イベント

(ア) 日本海大水槽バックヤードツアー

大水槽上部、調餌室、活魚輸送車を見学し、大水槽の裏側、餌の種類や冷蔵庫、活魚輸送車を用いた輸送方法や輸送生物を紹介します。

(イ) ペンギンバックヤードツアー

ペンギンの内巢の見学、繁殖や卵について解説を行います。

(ウ) イルカバックヤードツアー

イルカの調餌室、冷凍庫、治療プール・ウェイティングプール、音響室などを見学しながらイルカ健康管理やショーの裏側を紹介します。

(エ) 館内探検スタンプラリー「水族館をふかく知ろう」

館内14ヶ所に30周年特別解説ブース、スタンプ台9ヶ所を設けます。館内を全て回ることで展示内容を深く知ってまいります。

(オ) 大水槽の給餌体験

大水槽の生物に与えている餌の解説をして、実際に給餌してまいります。

(カ) イルカ健康チェック解説

夕方のボディチェック時に、体温測定や傷チェックの解説を行います。

(キ) ドルフィンスプラッシュ

間近でイルカのジャンプを見てもらい、その際作り出された水しぶきを浴びてもらいます。

(ク) バイカルアザラシの給餌解説

餌を与えながら、生息域や他のアザラシとの違い、繁殖について解説を行います。

(ケ) ビーバーの餌採集と給餌体験

ビーバーについての解説を行い、餌のヤナギを館内で採集してもらい、実際に食べている様子を観察します。

(4) 学習・交流部門

新潟市の社会教育施設のひとつとして、学校・家庭・地域社会など多方面と連携を取りながら、魚類等・環境保全・自然保護への関心を呼び起こす場を提供します。

① 実習生受け入れ

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導する博物館実習を行います。また、大学や専門学校からの要請により、インターンシップや職業実習を行います。

② 講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生および理科教育関係者に対して、海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。また、市内の学校等への出張授業や部活動への支援を行います。

③ 生涯学習のための情報提供

館内での質問、市民からの電話や手紙・メール等による問い合わせに対し、適切で素早い情報提供を行います。他の生涯学習施設との交流・協力を積極的に行うことで、利用者の幅広いニーズに対応できる体制を作ります。他施設との共催による自然教育・環境教育活動等を行います。

(5) 調査・研究部門

科学的な飼育や展示、および科学技術の発展のため、魚類等に関する調査研究を行います。その成果をホームページ・SNS・研究会等での情報発信、また常設・企画展示に繋げることで広く還元するよう努めます。他業務との調整を図りながら調査研究を積極的に実施します。

① 飼育生物に関する調査研究

魚類や無脊椎動物等、飼育生物の繁殖・育成に取り組むことで、大学等の研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示に反映させます。

② 野生水族に関する調査研究 ー地域の自然史に関する知見の蓄積と公開ー

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てます。現場で計測と状態の確認、標本採取などを行います。得られた情報及び資料は、展示に反映させます。トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てます。

- ③ 希少水族に関する調査研究 - 繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保全に関する知見の蓄積と公開-

公益社団法人日本動物園水族館協会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギンの生息域外保全（飼育下の繁殖等）に取り組みます。シナイモツゴ、ホトケドジョウ、ハクバサンショウウオの生息域調査を行い、これらの繁殖技術の確立、向上に取り組みます。また、一般社団法人日本水族館協会（旧日本鯨類研究協議会）の科学的根拠に基づく水生生物資源の持続的利用の立場による水生生物の飼育展示・教育研究・保護保全活動に協力し、飼育技術の向上、調査研究に取り組みます。

3 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。現在約80名が登録していますが、館内のイベントの補助、館内案内、磯の体験水槽解説、職員や来館者との交流等の活動を通して、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。

令和2年度は4月中旬頃から5月にかけて新規募集、6月・7月に全3回の新人研修を行い、7月に正式登録し活動を開始するスケジュールを考えています。新人研修の最終日と同日にボランティア総会を開催することで、新規登録者と継続メンバーとの交流を図ります。

令和2年度は30周年であることから、ボランティアからのサポートを必要とする事業が例年以上に多くあるため、より活発な活動が期待されます。

また、館の体制として、これまで以上に「オール水族館」体制で運営していく方針とし、展示課だけでなく管理課・学びのデザイン課、全ての課から担当メンバーを専任して運営をしていきます。体制の充実によるきめ細かい運営を心がけることで、一人ひとりのボランティアの自己実現をサポートするとともに、水族館・来館者・ボランティアの3者が満足できる活動を推進し、持続的なボランティア活動を目指します。

4 他館等との協力

平成19年に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流などを活発に行っていきます。また、行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

5 広報・広告宣伝について

各メディアの特性を把握しながら最適な広報・広告宣伝ができるように努めます。

「自社メディア（HPやチラシなど）」「ソーシャルメディア（Twitter・LINEなど）」「プレスリリース」「有料広告宣伝（TVスポット・情報誌など）」を4つの柱として行います。

「自社メディア」として、ホームページやチラシ・ポスターなどを行います。ホームページは、平成30年度にリニューアルしたことを機に、より解りやすい表現やイメージしやすい写真を活用し更新頻度を上げタイムリーな情報を発信します。チラシやポスターなどの印刷メディアの制作にも力を入れ、館内での掲示や配布だけでなく、県内及び隣県の小学校や幼稚園・保育園など対象に合わせた紙面づ

くりと直接配布を行います。

「ソーシャルメディア」での情報発信を積極的に展開します。展示生物の紹介や一瞬の出来事を写真や動画とともに魅力的に発信するため、展示スタッフによる Twitter 等の運用を行います。また、令和1年度から重要な広告宣伝のメディアとして力を入れ始めた Instagram を、令和2年度では、これまで広告展開が難しかった関東エリア（関越沿線）にも行います。各メディアそれぞれの特性を考慮した情報発信方法を研究し、より効果的になるようにいたします。

テレビや新聞のニュースとして取り上げてもらえるように「プレスリリース」を含むメディアへの情報提供を頻繁に行うことも重要課題と考えています。インターネットメディアでは、新潟市の各部署が展開している SNS ページや観光コンベンション協会運営の観光情報サイト、県内向け情報提供サイトなどへの積極的な情報提供を行い、草の根の広報を進めていきたいと考えています。

「有料広告宣伝」は、これまでの実績をふまえた上で、しかし前例にとらわれすぎることの無いように、効率的、効果的な方法および量になるように実施します。実施利用するメディアは、「テレビ CM (15 秒)」「テレビ番組内コーナー (TeNY わくわくマリンピア)」「ラジオCM (20 秒)」「旅行雑誌広告」「タウン情報誌・フリーペーパー広告」「新聞広告」「Web・ソーシャルメディア広告」に加え令和2年度は新規メディアとして新潟駅の「ステップ広告」を想定しています。これらのメディアを限られた予算の中でより効果的にプロモーションできるように、メディア配分、実施時期、地域および客層について計画します。

ターゲットとする地域は、新潟県内を最重要地域とし、県外は主に山形県と福島県に展開します。新潟県内は年間を通してテレビCMとラジオCMを実施します。県外については、山形県・福島県では夏期にかけてテレビCMを実施します。また令和2年度は開館30周年を迎えるに伴い、30周年バージョンのCMを新潟県・福島県・山形県で放映することにより、記念の年に新潟市水族館へ足を運びたいくなるような仕掛けを計画します。

6 アンケートの活用

意見箱の設置、館内アンケート・各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケートの分析などにより、きめ細やかなニーズを把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。

6 収益事業（自主事業）

来館者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行います。自動販売機については利益の一部を施設の運営に充て、指定管理料を削減します。

- | | |
|---------|-----------------------------|
| ① レストラン | 1 ヶ所・本館 2 階 |
| ② 軽食 | 2 ヶ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止 |
| ③ 移動販売車 | 1 ヶ所・アプローチ棟手前 ※季節・天候により営業中止 |
| ④ 売店 | 1 ヶ所・アプローチ棟 |
| ⑤ 自動販売機 | 18 ヶ所・館内各所 |

- ⑥ ロッカー 1ヶ所・アプローチ棟
- ⑦ 記念メダル 2ヶ所・本館1階
- ⑧ プリクラ 1ヶ所・別館